

第3回 伊勢原市総合計画審議会 会議録

〔開催日時〕 令和4年4月5日（火）

〔開催場所〕 伊勢原市役所 全員協議会室

〔出席者〕

（委員） 勝田会長、北川職務代理
赤星委員、秋澤委員、大川委員、大谷委員、小川委員、
小嶋委員、佐伯委員、菅原委員、高橋委員、竹村委員、
田中委員、長荒委員、西村委員、森 委員、吉川委員
（欠席者） 3名

（事務局） 山室企画部長、瀬尾経営企画課長、鈴木主幹(兼)係長
成澤主査、田伏主任主事、権田主事、吉川主事

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0名

《審議の経過》

■議事(1) 総合計画審議会(第2回)の意見と対応方針について
(質問なし)

■議事(2) 基本構想の構成要素について

① 将来都市像設定の考え方

（委員） 将来都市像の設定に当たり、隣接市との整合性を取るのか。

（事務局） 将来都市像の設定に当たっては、まちの特色を反映させるもので、他市の都市像との整合性を取ることはありません。

② 人口の将来展望

（質問なし）

③ まちづくりの基本理念

（会長） 基本理念の内容に「カーボンニュートラル」を取り上げた理由は何か。

（事務局） 二酸化炭素の排出量増加等に伴う気候変動により、災害が多発している状況である中、安全安心なまちづくりを行うためには、世界的にも取り組まれている2050年までのカーボンニュートラルを一丸となって取り組む必要があると考え、基本理念に示しました。

④ 基本政策

(委員) 施設の統廃合は、どのような視点(使用頻度等)で進めるのか。

(事務局) 現在、総合計画と同時進行で公共施設等総合管理計画の改訂作業を進めている。再配置や統廃合については、人口の偏在化や施設の機能性、必要性、安全性、効率的な管理など、様々な視点から考えています。また、単に縮減するのではなく、機能面での市民の利便性の確保等を考慮し、施設・機能の再編に向けて検討を進めています。

(会長) 公共施設については、PFI等の手法も検討をしているのか。

(事務局) 公共施設のあり方については、あらゆる手段や方法を排除せず、検討しています。

(委員) 基本政策Ⅰ「災害や危険から命を守る 強くしなやかなまちづくり」について、災害は自然災害等、危険は犯罪等を表していると思うが、必ずしも命に関わるものではないのではないのか。それを考えると「心身」や「暮らし」「生活」といった言葉の方がよいと考える。また、基本政策Ⅲ「子どもを産み育てやすく豊かな学びで未来を拓くまちづくり」について、子どもや教育は反映されているものの、生涯学習や本市の重要な施策である歴史文化の継承については、言葉として反映されていないのではないのか。「子どもを産み育てやすく 学びと文化で未来を拓くまちづくり」など、「学びと文化」という言葉を入れることで、子どもだけでなく、高齢者までを対象とし、歴史文化を継承していくという意味合いが入ると考える。

(事務局) 基本政策Ⅰ「災害や危険から命を守る 強くしなやかなまちづくり」について、表現を検討させていただく。基本政策Ⅲ「子どもを産み育てやすく豊かな学びで未来を拓くまちづくり」について、高齢社会を迎える中、生涯学習の重要性は高まっています。また、歴史伝統文化については本市の貴重な財産であると認識していますので、そういった特性を表現できるように検討いたします。

(委員) 基本政策Ⅵの内容で「国籍や人種、性別などの違いを互いに認め合い、多様性を尊重し合える社会の実現が求められる」とあるが、今何か具体的な問題があるのか。

(事務局) 本市において増加する外国籍市民との関わりや、パートナーシップ制度の検討など、今後本市が共生社会を目指すまちづくりとして、基本政策に掲げています。具体的な個別の問題が生じているわけではありません。

(委員) 基本政策Ⅵ「みんなの力で進める 持続可能なまちづくり」について、SDGsの「持続可能性」という言葉があるのだから、SDGsの理念を踏まえ、「誰もが他者をいたわり・思いやる心もち」の後段について、「地域を紡ぐまちづくり」から「誰一人取り残されないネットワークづくり」に変えてはどうか。

(事務局) 検討いたします。

(会 長) まちづくりの課題が8つで、基本政策が6つであるが、関連付けられているのか。

(事務局) 課題については基本政策にまたがる横断的な課題もあることから、8つに整理しています。特に、まちづくりの課題(1)の人口減少・少子高齢社会については、どの基本政策の分野にも関わる課題であり、また、まちづくりの課題(8)の公共施設の縮充・最適配置、老朽化への対応についても、各施策を進める中で公共施設の管理や財源の確保が必要となることから、全体的な課題として捉えています。したがって、課題と基本政策は1対1の関係ではなく、横断的に結びついていると整理しています。

(会 長) まちづくりの課題と基本政策の関係がわかりづらい。問題意識があって、基本政策が出てくるのであって、基本政策の一つ一つがどのような課題を解決するものなのかを説明しづらいのではないかと。また、基本政策の分野について、何に基づいて分けたものかを説明できるとよいと考えられる。

(事務局) 考え方を整理します。

(委 員) 市民の皆さんに親しみやすい総合計画をつくるのが大切なことだと思う。例えば、伊勢原大山インターの話や自然や日本遺産をはじめとする歴史文化、ゼロカーボンシティいせはらなど、市民が伊勢原のことだと直感できるような言葉を入れ、伊勢原らしさを計画に表すとよい。

(事務局) 計画の検討に際し、課題や環境変化を議論してきました。次回お示ししますが、本市の特性と展望を踏まえ、伊勢原らしさや魅力を生かしながら、まちづくりを進めていきたいと考えています。市民に自分事として捉えていただけるよう伊勢原らしさを出していきたいと考えます。

(委 員) 一番大事なものは、キャッチフレーズ(将来都市像)のところで、伊勢原らしさをもっと出すべきだと思う。伊勢原の特徴である大山や「暮らして楽しい、住んで安心」など、キャッチフレーズを見て伊勢原であることがわかるように考えていただきたい。

(事務局) 検討いたします。

■議事(3) 今後のスケジュールについて

(質問なし)

以 上